2014/3/12 日経

【第三種郵便物認可】

埼玉

東武、相互直通で乗客増

――牧野常務に聞く

東武鉄道が沿線の価値向上に向けた取り組みに力を入れている。東武東上線と東京メトロ副都心線・東急東横線などとの相互直通の効果もあって利用客数は順調に増加しているが、少子高齢化の進展で将来的には成長が鈍るのは避けられない。路線に愛称を付けたり、運行システムを改善したりといった取り組みを通じ、居住者や観光客から選ばれる沿線づくりを目指す。同社の牧野修常務・鉄道事業本部長に今後の針路を聞いた。

――東上線と東京メトロ副都心線・東急東横線などとの相互直通運転が始まって間もなく1年を迎える。

「相互直通によって乗車人員は数%程度減るだろうとみていたが、2013年度上期（4～9月）、池袋駅の乗車人員は前年同期比でほぼ横ばい。副都心線の始発駅である和光市駅は4・8%の増加。JR武蔵野線との乗換駅である朝霞台駅は2・0%増、志木駅も1・4%増えた。利便性が上がり、マンションの建設が活発化して定住人口が増えた結果とみている」

路線名変えイメージ向上

今年1月に乗客数が500万人を突破したTJライナー

「川越の観光需要がすごく増えている。13年度上期の川越駅の乗車人員は前年同期比2・4%増。見逃せないのは昨年12月の川越駅の定期外の1日当たり収入は、土日祝日で9・0%も増えたことだ。冬場はそんなにお客さんが動く時期ではないだけに驚いている。東京や横浜方面から川越に来るお客さんが目立って増えているためだろう」

――ここ数年、鉄道事業での積極策が目立つ。

「2年前のスカイツリーの開業で鉄道として何ができるか考えた。東武線に乗ればスカイツリーに行けるんだというイメージを押し出すため、駅名だけでなく路線名も伊勢崎線から東武スカイツリーラインに変えた」

――東上線は5月で開業100周年。新たなサービスは。

「来年春の完成を目指し、東武初の自動列車制御装置（ATC）システムの工事に取り組んでいる。レールから列車情報を拾い、常に前の列車がどこにいるか分かるものだ。これによって前の列車に詰めて走るなど運行の遅れを少なくできる」

「座席定員制列車である『TJライナー』は昨年3月に平日10本体制に増やしたが、ほとんど100%利用されている。今後は朝も座って通勤したいというニーズへの対応を検討する」

――野田線はどうか。

「次に力を注ぐ路線と位置付けている。4月からは愛称名を『アーバンパークライン』としイメージ向上を狙う。沿線には大宮、柏、船橋と中核都市があり、大宮公園や柏の葉公園など多くの公園があることから、これらをイメージする路線名にした」

「昨年、60000系というバリアフリー、省エネなどに優れた新車両を2編成導入したが、今年度内に8編成に増やす」

（聞き手は市川嘉一）

2013年度上期（4～9月）乗車人員の前年同期比増減率

スカイツリーライン（伊勢崎線）	
浅草駅	▲5.3%
北千住駅	0.5
草加駅	2.0
越谷駅	3.2
春日部駅	1.7

東上線	
池袋駅	0.0%
和光市駅	4.8
朝霞台駅	2.0
志木駅	1.4
川越駅	2.4

野田線	
大宮駅	0.3%
流山おおたかの森駅	2.0
柏駅	0.0
新鎌ケ谷駅	1.5
船橋駅	0.1

（注）▲はマイナス

☎さいたま支局048-822-2580